

○約518ha、4,681戸にも及ぶ浸水及び氾濫流により、未曾有の被害が発生した人吉市街部。



氾濫流が人吉市街部を流下し
青井阿蘇神社の禊橋の鳥居も水没

7月4日午前撮影



写真⑤

提供：人吉市民

高さ3m付近に洪水痕跡を確認
(国道445号通り)



写真⑦

建物の一階部分まで浸水
(人吉市紺屋町)

7月4日午前撮影



写真⑥

提供：人吉市民

堤防を2m程度上回る高さに洪水痕跡を確認
(水の手橋下流右岸)

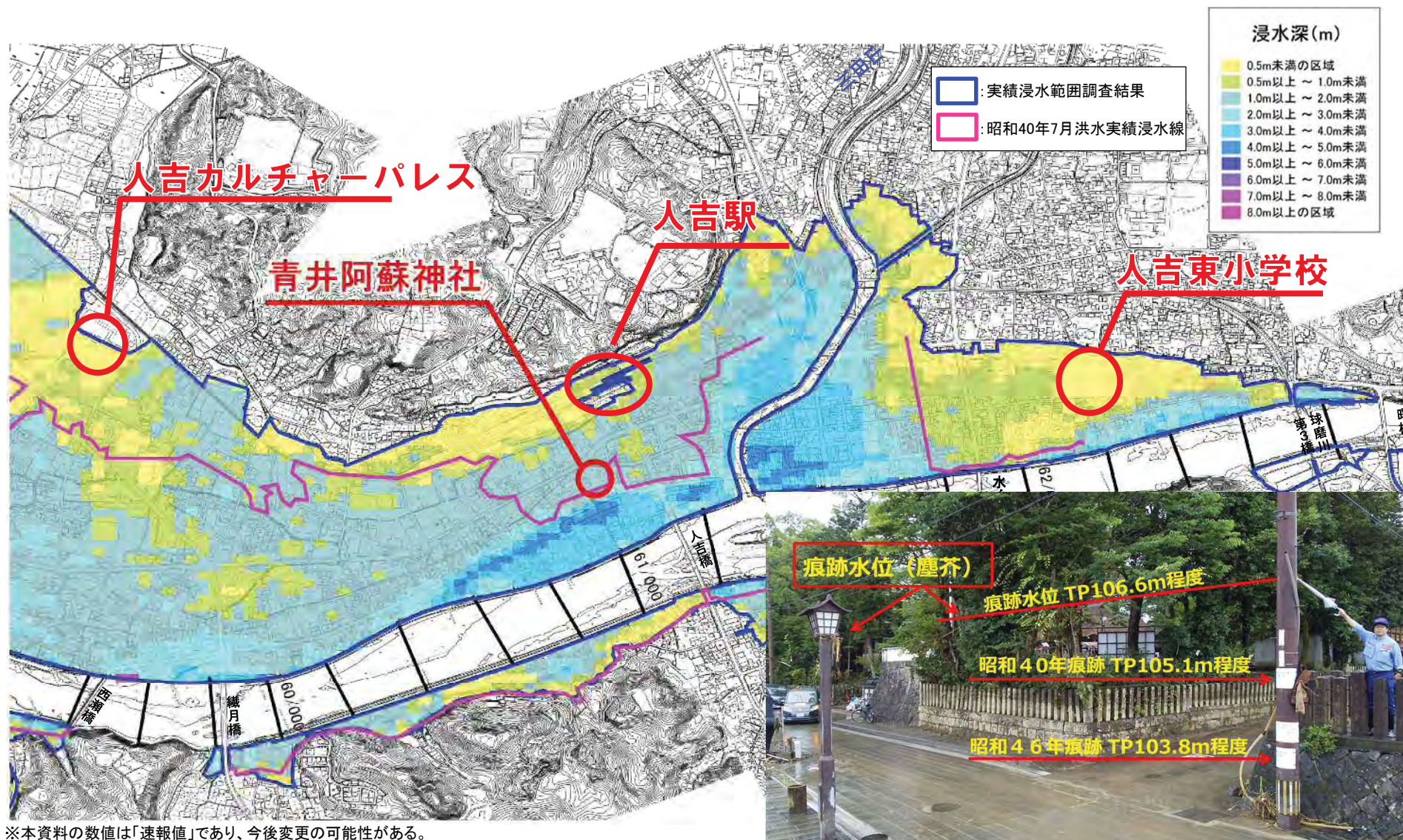


写真⑧

2. 令和2年7月豪雨の被害状況(人吉市街部)

26

- 青井阿蘇神社付近では、S40.7洪水時よりも約1.5m深い浸水深であった。
- S40.7洪水時に浸水が無かった人吉駅や人吉カルチャーパレス、人吉東小学校においてもR2.7洪水時には浸水が確認されており、広範囲の浸水被害となった。



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

○国宝青井阿蘇神社の洪水痕跡を比較すると、令和2年7月豪雨による洪水は、昭和40年7月洪水を上回り、寛文9年(1669年)洪水と同程度の浸水深であった。



寛文九年八月十一日大雨洪水、青井宮樓門に三尺余間へ、大橋中川原より南十間余り流出、夫より以来大橋二つに成る

文献の記載内容
同年8月11日大雨洪水、青井宮樓門に3尺余間へ、大橋中川原より南10間余り流出、夫より以来大橋2つに成る

※出典：南藤曼綿録 卷之十三

※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

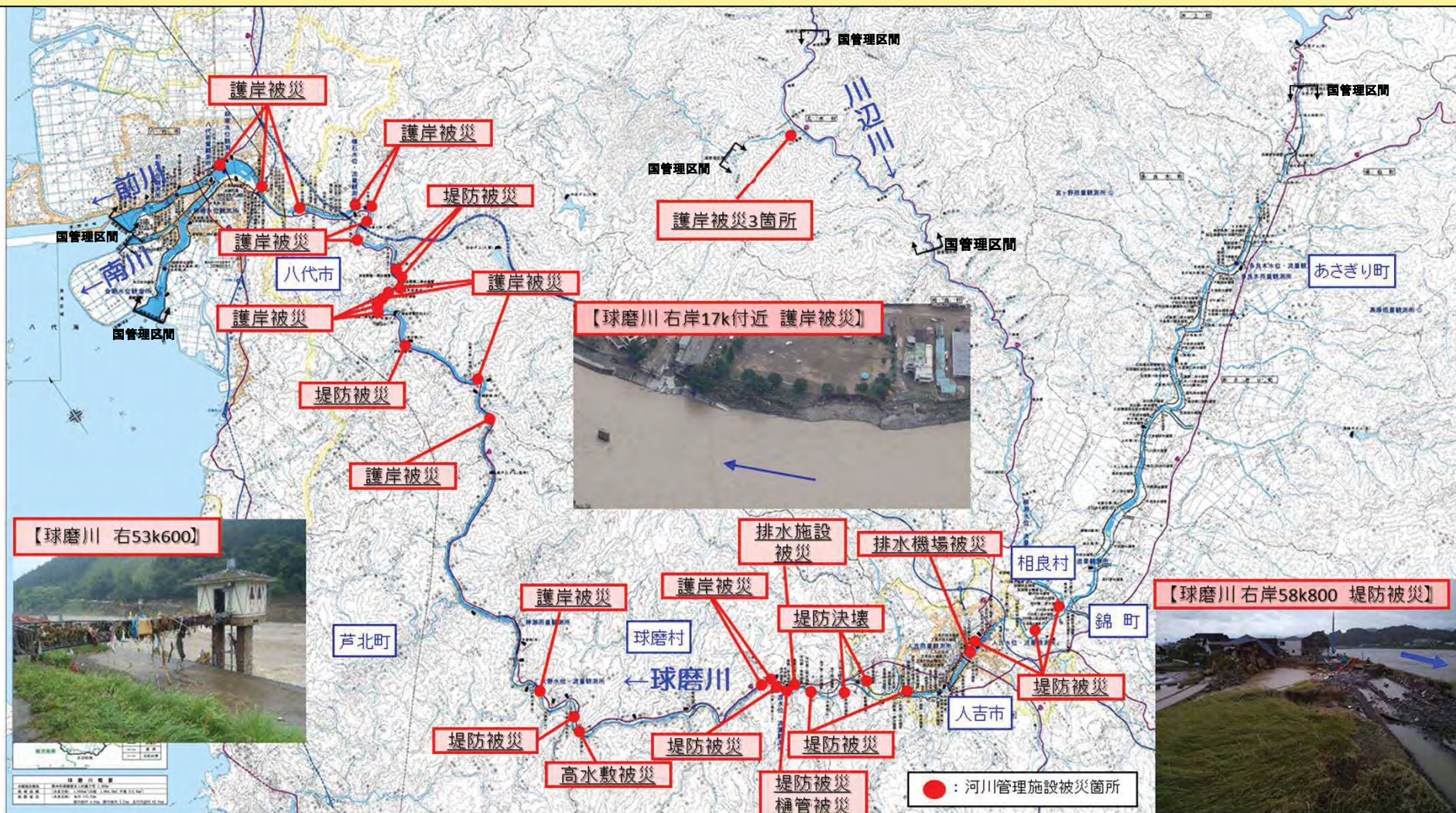
2. 令和2年7月豪雨の被害状況(橋梁の被災)

- 被災した橋梁は、直轄管理区間で14橋を確認した。(内鉄道橋3橋)
- 上部工が全流失している橋梁が多く、写真からも橋梁部での堰上げが確認できる。



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

- 国管理区間で災害復旧事業としての対応が必要な管理施設被災としては、堤防決壊2箇所、堤防損傷10箇所、護岸欠損17箇所、排水施設3箇所、排水機場1箇所などの全36箇所で確認している。
- 球磨川本川の被災は、主に川辺川合流点より下流で発生している。



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

- 決壊した堤防2箇所については、緊急復旧が完了。
- 堤防決壊等に対し、「堤防調査委員会」を開催し、被災原因の究明と復旧工法等の検討を実施している。(現時点で2回の委員会開催)

右岸56k400被災状況



左岸55k000被災状況



7月4日23時 復旧工事着手
7月6日24時 緊急復旧完了



7月8日18時 復旧工事着手
7月9日 9時30分 緊急復旧完了

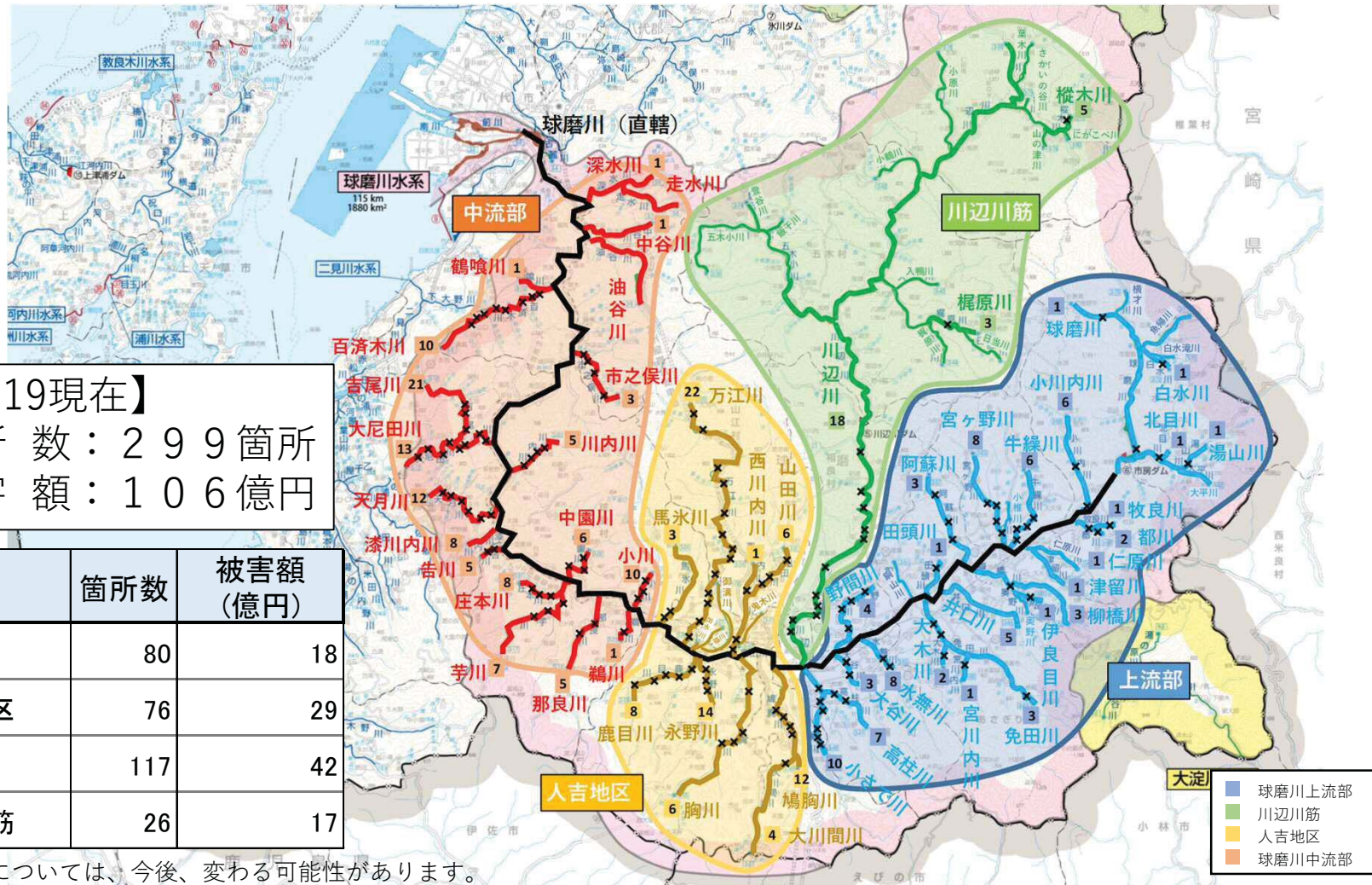


※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

2. 令和2年7月豪雨の被害状況(熊本県管理区間の施設被害の概要)

31

- 県が管理する球磨川水系の河川は、82河川、434km。
- 令和2年7月豪雨により、8月19日現在、このうちの53河川、299箇所、106億円の被害が報告されている。
- 施設被害は、降雨量の多かった球磨川中流部の支川に、その4割が集中している。
- 施設被害は、河道埋塞、堤防決壊、側方浸食、護岸の一部欠損などが確認されている。また、人吉市街部や川辺川沿川で大規模な浸水被害が発生している。



【R2.8.19現在】

箇所数：299箇所
被害額：106億円

エリア	箇所数	被害額 (億円)
上流部	80	18
人吉地区	76	29
中流部	117	42
川辺川筋	26	17

※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

- 主要な支川は、小川、川内川、吉尾川などがある。
- 本川の水位上昇により支川の水位も上昇し、本支川合流部付近の集落が浸水している。
- 川内川・吉尾川などでは、河道埋塞やそれに伴う流路変更が確認されるとともに、掘り込み区間の側方浸食など、球磨川の県管理河川施設の被害の約4割が集中して確認されている。

市之俣川・河道埋塞



吉尾川・河道埋塞、流路変更



吉尾川・護岸一部欠損



※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

川内川・河道埋塞



川内川(本川合流部)・浸水



小川・堤防一部欠損



2. 令和2年7月豪雨の被害状況(熊本県管理区間の施設被害の概要(人吉地区))

33

- 主要な支川としては、山田川、万江川、胸川などがある。
- 万江川の山間部の道路との兼用護岸で、溢水により5戸が浸水している。
- また、本川の水位上昇により支川の水位も上昇し、本支川合流部付近の人吉市街部で大規模な氾濫が発生した。
- 施設被害は、山田川の特殊堤が180mにわたり決壊、万江川の掘り込み区間が150m側方浸食されるなど、比較的規模の大きな施設被害が確認されている。

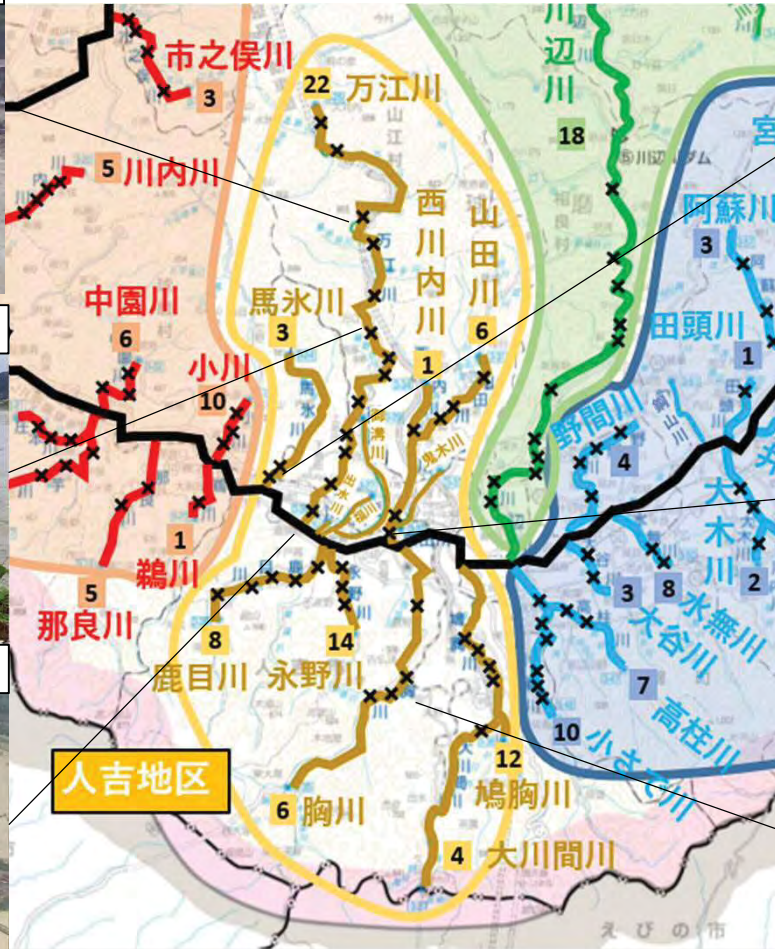
万江川・兼用護岸一部欠損



万江川・側方浸食



万江川(本川合流部)の浸水状況



馬氷川・護岸一部欠損



山田川・特殊堤決壊

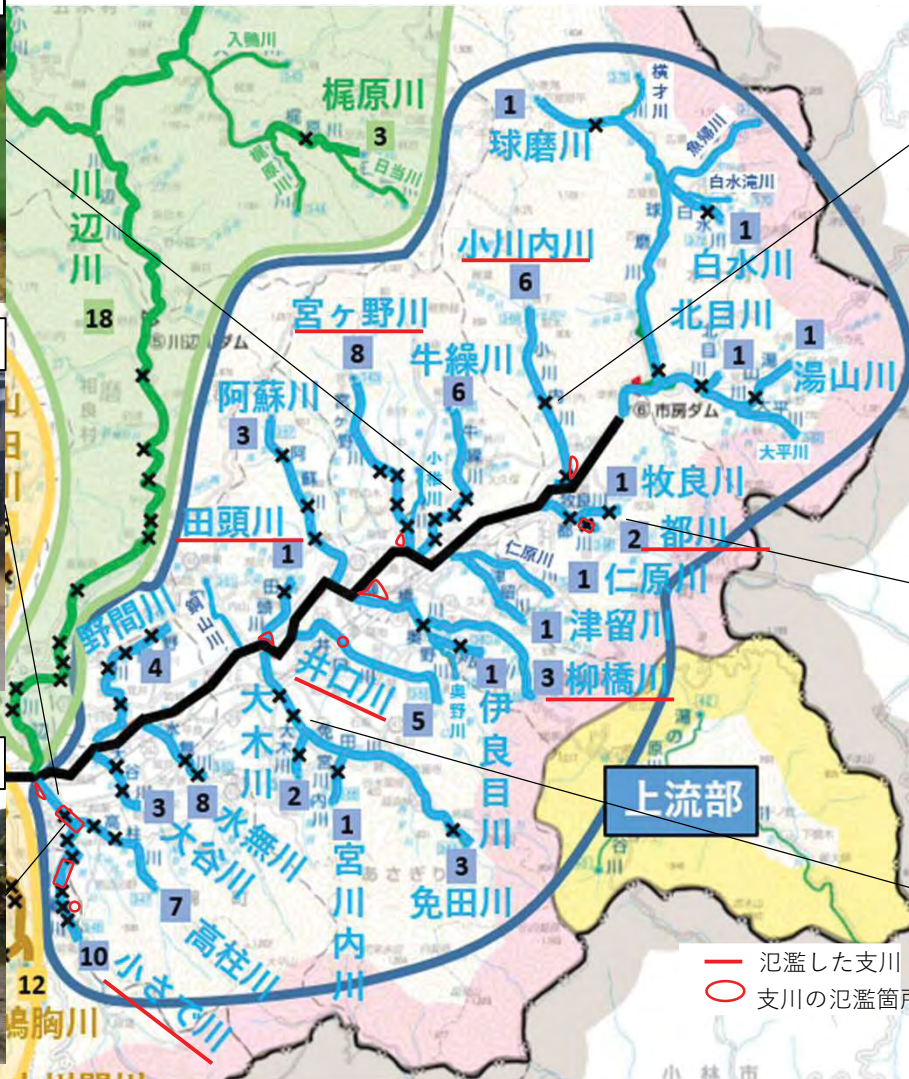


胸川・護岸一部欠損



※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

- 小籾川など7河川の一部で河川の氾濫や内水により浸水が発生している。
- 氾濫は川沿いの低い土地への溢水氾濫である。
- 施設被害は、堤防や護岸の一部欠損などが確認されている。



※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

2. 令和2年7月豪雨の被害状況(熊本県管理区間の施設被害の概要(川辺川筋))

35

- 川辺川両岸の低地部分に、河道から越水・溢水氾濫をしながら、洪水が流下している。
- 永江地区など川沿いの主な集落が浸水し、浸水面積約130ha、浸水戸数約170戸の被害が発生している。
- 施設被害は、護岸の一部欠損等が確認されている。

川辺川・護岸一部欠損



梶原川・護岸一部欠損



川辺川(永江地区)



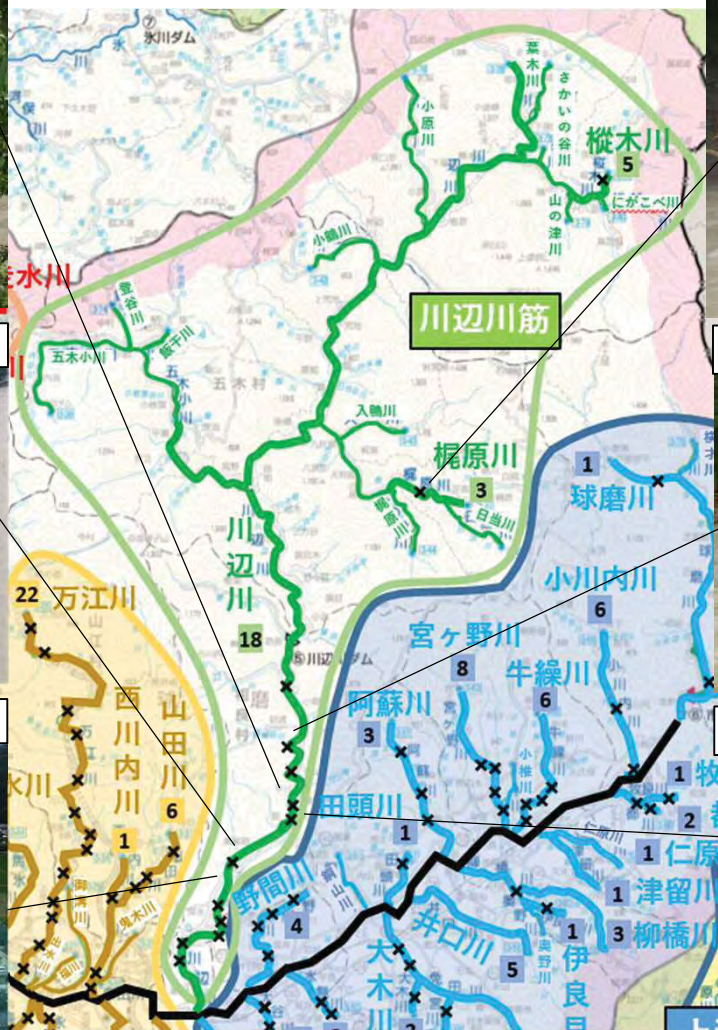
川辺川・護岸一部欠損



川辺川(永江地区)



川辺川(上川下地区)



※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

2. 令和2年7月豪雨の被害状況(人的被害の状況(犠牲者の年齢構成等))

36

- 令和2年7月豪雨による県内の犠牲者は65名。その内、球磨川流域の犠牲者は50名と推測され、全体の77%を占める。
- 死因は、49名が溺死(疑いも含む)、1名が多発外傷。
- 市町村別では、球磨村が最も多く25名。人吉市が20名。
- 犠牲者は、65歳以上の高齢者が86%。また、75歳以上の高齢者が70%(35名)。

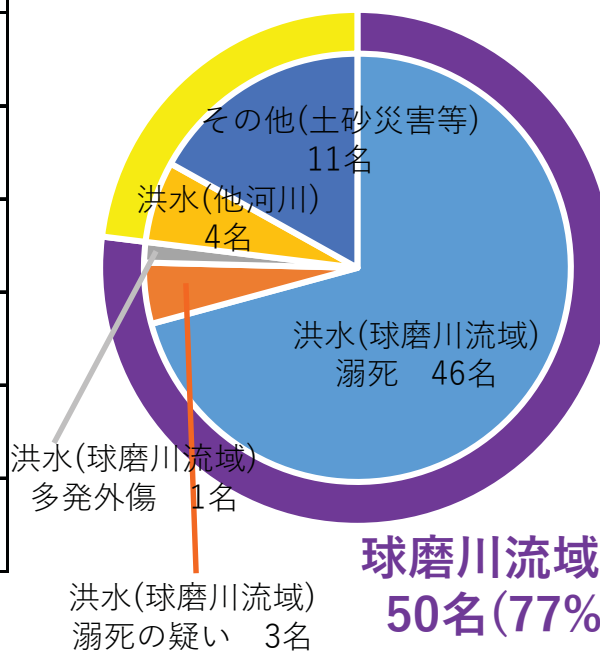
市町村別犠牲者数

	全体	うち 球磨川流域
球磨村	25	25
人吉市	20	20
芦北町	11	1
八代市	4	4
津奈木町	3	0
山鹿市	2	0
合計	65	50

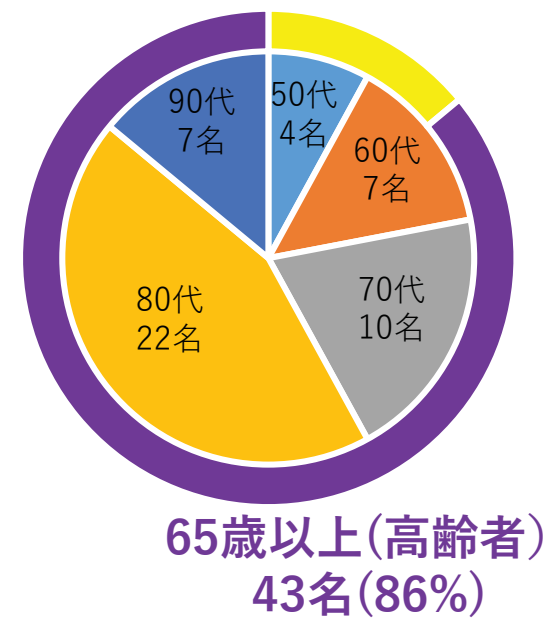
※犠牲者数については、熊本県災害対策本部会議資料(熊本県警察本部提供資料)を基に記載。

※球磨川流域の犠牲者数については、熊本県災害対策本部資料(熊本県警察本部提供資料)の「住所」と「死因」等から推測

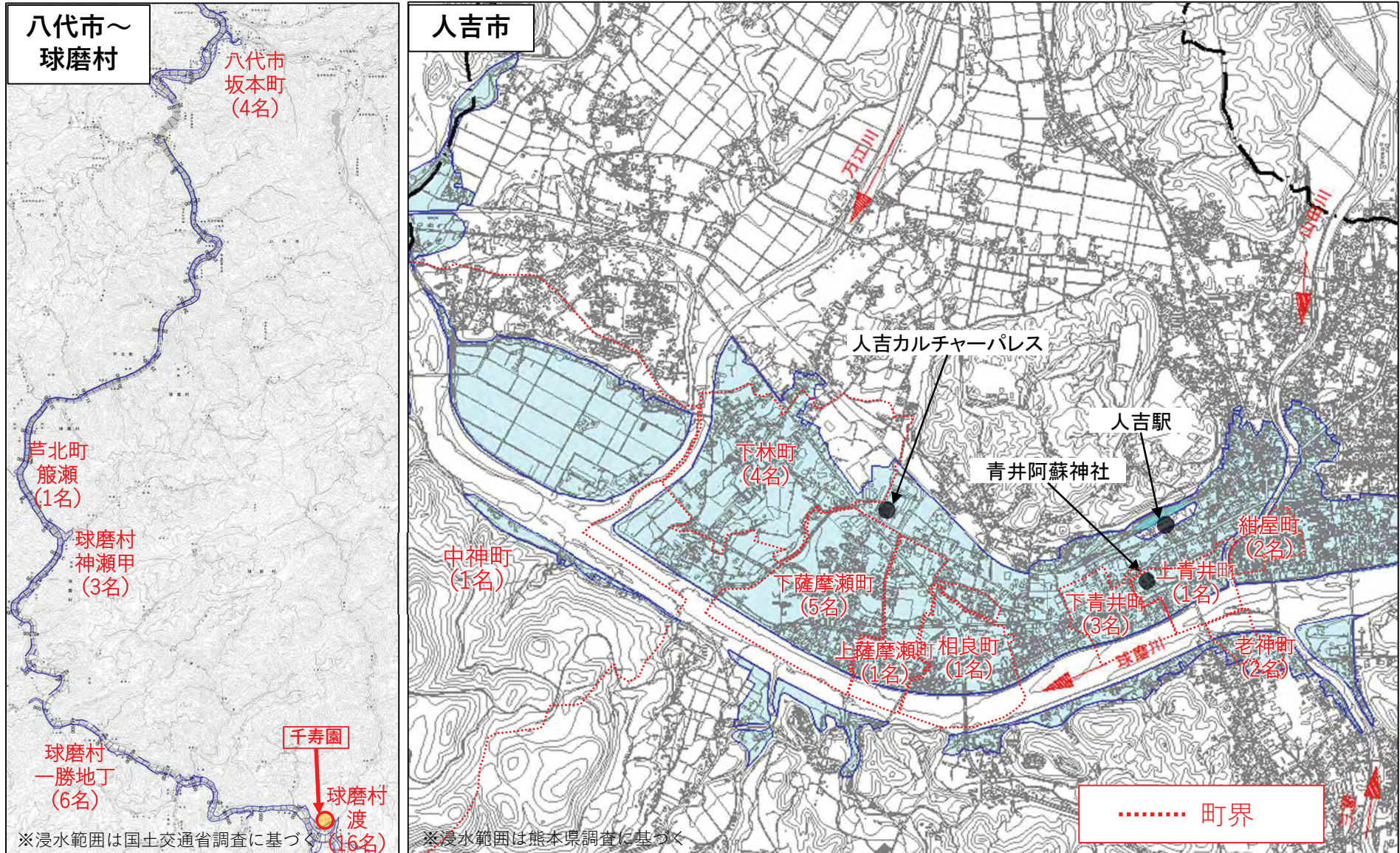
犠牲者 (全体65名)
内訳



犠牲者 (球磨川流域50名)
年齢構成



○球磨川流域の犠牲者(50名)の発生場所の状況※については下図のとおり。
 ○人吉市の犠牲者(20名)は、概ね浸水範囲と一致し、浸水範囲が広い右岸側に集中している。
 ※発生場所については、熊本県災害対策本部会議資料(熊本県警察本部提供資料)の「住所」に基づき集計したものを記載。



※被害内容については、今後、変わる可能性があります。